

# △その94▽ うだつの町並みを復興する 徳島・脇町図書館を設計して

重村 力△建築家・神戸大学講師▽

まちづくりに関わることの楽しみの一つは、これが本当に動き出した時に、どんどんと思わぬ方向にまで発展していくさまを見守ることにある。生みの苦しみもあるが、この様な状態になると、ちょうど植物が根付いて、初夏に日に日に枝葉が繁っていくのを見守る楽しみに似ている。

私が、いるか設計集団（海岸通・海岸ビルディング内）の仲間達と共に設計した、徳島県脇町の脇町立図書館も、そのようなまちづくりを誘発する建築となった。脇町は昔、吉野川の水運と藍の取引で栄えた町で、本瓦・白漆喰・骨太の格子の町家の建ち並ぶ町並みが、忘れられたように遺されてきた。何よりも人々の目を魅くのは家々の軒の上に独特な形をした

上／脇町図書館内部一伝統のモチーフと、地場の材料によるモダンな内部空間

「卯建」があり、これらが町並みとして、連なっていることである。10年前、明石工専の渡辺宏助教授（建築史）が、学術調査をして以来、このうだつの町並みは徐々に町の内外の人々に、その価値が知られるようになってきた。二年程前、私は町の人々とこの町並みを遺し、これを活かすことにより、まちづくりを進めることを話しかけていた。そんな中から、町並みの中央部にある土蔵群の並ぶ農協の敷地に図書館を含んだ文化センターをつくる計画が生まれてきた。この敷地にある土蔵群や、祠や、背の高い土塀は、一つ一つ見た時に、例えば国宝の様な価値の高いものではない。だが、脇町の町並みが、絵に描かれ、写真に撮られたりする時、つまり人々が心に思い浮かべる時、いつもその中の欠かせぬ要素として入っている大切な建築であり、人々の思い出の残る場所である。

下／脇町図書館の路地から  
（右）新設部分（左）保存部分

これらの古い建築を残せる限り残し、活かせる限り活かして、どうにか近代的な図書館・ギャラリー・集会室の要求と両立させることは出来ないか。このことにみなで、知恵をしぼった。傾きかけた蔵は、ひき起こされ、漆喰が補修され、新設の部分と結んで内部を利用することに決まった。

私は、町並みと接する部分では、伝統的な意匠の再現を試み、街区の奥まった部分や、図書館の内部では、伝統的な意匠のモチーフを、現代的なデザインへと転換することに苦心をした。工事がはじまると、瓦や、漆喰や、青石などの、地場の材料が、またこれらの技術を承継している職人さん達が、つぎつぎに集まってきた。これらこれらの材料や、技術が、近代的な性格の施設に使わなくなつて久しかった。だから、みんな意気に感じて仕事をやり通した。

この建築が建ち上ると、町の人々が本当によるこんで使ってくれるようになった。そればかりか、新しく建つ大型の公共施設、ショッピングセンターや、中学校なども、ほとんどこの脇町様式を採用して建てられるようになったのは望外の発展であった。町のアイデンティティーというのが、全国的に消え去り、凡庸な町に変わっていくなかで、脇町のこのような試みと動きに、協力することができたのは、建築家として本当にうれしいことである。

# 井植文化賞

## 報道出版部門



中平 邦彦

「バルモア病院日記」著者。昭和13年芦屋市生まれ。同志社大学卒業。現在神戸新聞社論説委員。4年前バルモア病院内の三宅廉院長との出会いを機に、現代社会の病根が出版医療にあると痛感し本書を執筆。



加藤 一郎

〈神戸大学名誉教授  
神戸大学名誉教授  
神戸大学名誉教授

スタジオTODAY  
ホットに語ろう

〈ラジオ番組制作  
以来軽妙な司会と多彩なゲストで多くのリスナーから共感を得ている。毎回親しみやすいテーマを扱いながらも、現代人がかかえる今日的な問題に鋭く迫る。

戦後、日本の復興と繁栄に大きな足跡を残した三洋電機株式会社の創設者、故井植歳男氏の遺志によって昭和44年11月に設立された財団法人「井植記念会」が、兵庫県在住または兵庫県にゆかりの深い人のなかから、めざましい活躍をされた人を受賞の対象としてその功績を讃えるとともに、地域社会のより一層の発展に寄与したいと考え、この《井植文化賞》6部門（本年より国際交流部門を新設）を設定しました。今回で第11回を数え、各分野の評議家、学識経験者などをもって部門ごとに構成される選考委員会によって、次のように決定しました。

## 国際交流部門



加藤 一郎

〈神戸大学名誉教授  
神戸大学名誉教授  
神戸大学名誉教授

明治37年名古屋生まれ。京都大学独文専攻卒業後、神戸商業大学（現神戸大学）のドイツ語講師を経て甲南大学へ。その間、日独協会の副会長、会長を務めた。昭和33年から2年間、ハンブルグ大学の交際教授として教壇に立ち、昭和50年に西ドイツ政府より第一級功労十字章、同51年には勲三等に叙せられる。翻訳も多数。

## 地域活動部門



（社）神戸新聞文化センター

〈理事長・小林幸和〉

昭和32年10月、神戸新聞社が、兵庫県民の福祉と郷土文化の育成・発揚の拠点として設立。全国の文化センターの草分け的存在。野外教室等の新しい講座項目も早くから取り入れ、昭和58年からは隔年で海外文化使節団も派遣、国際交流にも努めている。

## 科学技術部門



岡田 安弘

〈神戸大学医学部教授〉

昭和10年神戸市生まれ。神戸医科大学卒業後、東京大学医学部大学院博士課程を卒業、医学博士となる。昭和44年から西ドイツのマックスプランク脳研究所などに留学。56年に神戸大学医学部に戻り現在に至る。GABA（γ-アミノ酪酸）研究の第一人者として高い評価を得ている。

## 文化芸術部門



神戸灘ライオンズクラブ

〈会長・政田義徳〉

昭和41年より始まったアクティビティコンサートは、年2回、3月と7月に定期的に行われており今年で52回を数える。地域音楽文化の向上と新人音楽家発表の場として大きな役割を果たしている他、その収益金を社会福祉に用いるなど、収益事業としても高く評価されている。

## 社会福祉部門



エリア会

〈代表・高木謙三〉  
病院を中心に、地域分散型老人ホームを有野台に結成。単なるボランティア活動だけではなく、老人自らの手による新しい形の老人ホームを創り出している。



要約筆記サークル

OHP こうべ

〈代表・梶原十三三〉  
性難聴者で、手話が出来ない人のために、オーバーヘッドプロジェクターを利用して、会話を字にして見せると言ったボランティア活動が続けられている。



# ■第11回井植文化賞 文化芸術部門

## 地域音楽文化の発展と 新人育成に貢献した

### 神戸灘

### ライオンズクラブ

★選考委員

柴田 仁 小石 忠男

△音楽評論家▽

△音楽評論家▽

出谷 啓

△音楽評論家▽



「文化芸術部門」にライオンズクラブとは、と意味がわからぬ人もおられるだろう。当然である。しかし音楽に貢献したという視点から眺めると、神戸灘ライオンズクラブは、地味ではあるが本当にすばらしい仕事を続けてきたと思う。このクラブは一九六六年三月の第一回から数えて、現在まで二十一年間、五十二回に及ぶアクティビティコンサートを開催し、神戸を中心とした地域音楽文化の発展に非常な貢献を続けてきたのである。

具体的にいうと主として新進演奏家に権威ある発表の場を提供し、それもあるべく出演者に負担をかけるない方法で一貫してきた。それ自体が音楽家への大きなアクティビティだが、その収益金を社会福

祉のために用いるなど、アクティビティコンサートの開催を巡ってさまざまな実効を生み出してきたことは高く評価されねばなるまい。また第三十回コンサートを記念して神戸灘ライオンズ音楽賞を設け、新人の育成に寄与している。こうして五十回を越えるコンサート

の開催は、兵庫県と神戸の音楽界に確固とした歴史を築いた。ここで紹介された演奏家のなかには、著名な国際コンクールに入賞し、あるいは権威ある賞を受賞するなど、第一線で活躍している人も多い。このように音楽界に継続的に貢献してきたライオンズクラブは、わが国ではほかになく、この受賞を機に音楽文化の発展に、今後ますます力を添えて欲しいと思う。

△小石忠男▽

## ●選考経過

文化芸術部門は、今回は音楽部門からの選考となる。

まず個人の候補としては、声楽の小村亮三、坂本環、作曲の大前哲、徳永秀則、フルートの持田洋、リコーダーの北山隆。そして団体では明石市民オペラ、神戸中央合唱団、土曜会などがあがった。

選考の内容は過去3～4年の活動や将来性という点から検討されたが、音楽部門の範ちゅうとして音楽家のみならず音楽活動を支える人に目を向けても、という方向が考えられた。そこで候補にあがったのが毎年2回アクティビティコンサートを催している神戸灘ライオンズクラブ。昭和41年から計52回にわたるコンサートを開催しており、ライオンズクラブの一石五鳥の事業のひとつとして大きな成果をあげている。

また神戸灘ライオンズクラブ音楽賞を設け、新人音楽家を育成している点からも、今回は神戸灘ライオンズクラブに決定した。

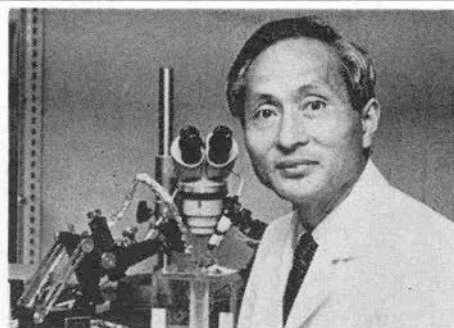
### ●受賞者メモリアル

1. 龍夫<現代美術>
2. 山田 幸平<作家>
3. 横井 和子<ピアニスト>
4. 荒木 高子<陶芸家>
5. 多田智満子<詩人>
6. 田原 富子<ピアニスト>
7. 昇 外義<画家>
8. 安水 稔和<詩人>
9. 延原 武春<指揮者>
10. 山沢 栄子<写真家>

# 第11回井植文化賞 科学技術部門

## 脳機能の生理学的 解明を評価して

### 岡田安弘



★選考委員

水野 進

△神戸大学農学部部長▽

松本 治彌

△神戸大学工学部部長▽

薄井 泰彦

△神戸大学医学部部長▽

真鍋 正志

△神戸新聞論説委員▽

現在、脳の科学（ブレインサイエンス）は最も注目されている学問の一つである。神戸大学医学部生理学講座の岡田安弘教授は長年にわたる脳科学の研究で高い評価を得ておられる。すなわち、神戸大学医学部を卒業後、東京大学脳研究所で神経生理学、アメリカのワシントン大学で神経生化学、ドイツのマックスプランク脳研究所で神経解剖学の研究をされ、東京都神経科学研究所を経て神戸大学に移られ、総合的な面から脳機能の研究に取組んでおられる。とくに、脳の働きの調節に重要な役割を果たし、精神作用やけいれんなどに対して抑制作用をもつ抑制性神経伝達物質であるGABA（ガンマーアミノ酪酸）の脳内の微細分布とその機能を明らかにし

たことで有名である。また、抑制物質として知られるアデノシンの脳内作用のしくみも明らかにされた。さらに、神経系のエネルギー代謝の研究において、一般に神経細胞は低（無）酸素に弱いと信じられていた説をくつがえし、神経細胞そのものは低酸素にしても、グルコースを供給して低温度を保てば、きわめて長時間生存できることを明らかにし、最近大きな話題となつている脳死判定の問題にも一石を投じ注目されている。本年八月ハンガリーで行われる世界神経科学学会で岡田教授はシンポジウムの招待講演者選ばれ、そのほか多くの学会活動を通じて、国際的にその活躍が大いに期待されている。

△溝井泰彦▽

## ●選考経過

まず農学部系から候補にあつたのは、神戸大学農学部助教授の安田武司氏で未利用資源の食糧化とニューバイオテクノロジーの一分野である組織培養の研究に対する貢献が期待されている。

工学部系からは、同大学工学部の二助教授、日本の知識情報処理のホープである金田悠紀夫氏と人工衛星による観測装置の開発研究に取り組む賀谷信幸氏が候補にあがつた。

医学部系からは昨年も推された岡田安弘教授がGABA（γ-アミノ酪酸）研究を評価され候補に。

科学技術部門に於て医・工・農の異なる三分野からそれぞれの研究者とその成果を比較検討するのは困難との声も出たが最終的に脳の抑制メカニズムから脳死に及ぶ広範囲の生理学的解明に多大な貢献をした岡田安弘氏に決定した。

尚、来年からは民間企業の基礎研究者も候補の対象に入れ、より開かれた審査会である為にも企業側からの選考委員も出席することとなった。

## ●受賞者メモリアル

1. 櫻井春輔 <岩盤力学>
2. 杉山武敏 <遺伝子学>
3. 土田広信 <農芸化学>
4. 嶋田勝次 <都市計画・建築>
5. 沢村誠志 <障害者の社会復帰>
6. 安藤四一 <音響の研究>
7. 辻 莊 <家畜育種学>
8. 西塚泰美 <生理学>
9. 中岡睦雄 <パワーエレクトロニクス>
10. 清水 晃 <微生物生態学>

## ■第11国井植文化賞 社会福祉部門

新しい形の分散型老人  
ホームを作りあげた

# エリア会

(セブンスデー・アド  
バンデリスト協団)

★選考委員

服部 正 津田 元

野上 文夫

〔兵庫県社会福祉協議会  
社会福祉情報センター所長〕

〔松陰女子学院大学〕 〔神戸新聞社論説委員〕



木下淳子さんは、母親が寝たき

りになり、やむなく教職を捨てそ

の介護に五年間専念した。これが

老人福祉に深い関心をよせるキッ

カケとなり、以後自ら老人福祉の

実践活動へと進んでいった。

アドベンチスト教会は、信徒の

老後問題を把握するためアンケート

調査を実施した。その結果は、

①医療が完備したホーム。いざと

いう時に直ちに医者にかかれるホ

ーム。②若い世代との交わりが保

てるホーム。即ち地域から隔絶さ

れないホーム。③年をとって体が

不自由になっても、常に何かのお

役にたちたい。可能なかぎり働け

る、生きがいに溢れたホーム。こ

の三点が信徒の希望であった。

病院のある北区有野台であった。

木下さんはこの理想を実現するた

め神戸の地に飛び降りてきた。

ようやく二階建二十五坪の借家

を確保し、これを改造し「エリア

会有野台センター」の本部が発足

したのが昭和五十四年一月であっ

た。十一月には高齢者が自立の生

活ができるよう風呂、階段、台

所、手摺、ベル、インターホンな

ど設備の改造をして二名の入居者

からスタートした。翌年六月には

さらに家を購入し、同じく改造し

て二名を受け入れた。こうして順

次家を求めて現在は六軒で九名が

生活をしている。

エリア会の特徴は、有野台セン

ターと病院を中核とし、周辺の一

般住宅に老人が分散して数人又は

一人づつ住い、地域住民として可

能な限り自立した生活をおくる。

いいかえれば施設ケアと在宅ケア

を統合したもので全く新しい地域

分散型ホームで、二十一世紀の高

齢者福祉のあり方を模索したもの

として全国的に注目されている。

エリア会は教会の信徒を中心に

発展してきたものであるが、現在

は地域との交流、ボランティアの

協力、民生委員など福祉団体の理

解も得られるほど活動が広がって

きた。これからはミニ特養、シヨ

ートステイ、路間看護事業へと意

欲をもって進めている。木下さん

はその推進役として活動してい

る。

△野上文夫▽

## ●選考経過

候補として次の団体があがっ

た。高齢者がともに地域で自立

できるよう、分散型老人ホーム

という新しい形式を生みだした

「エリア会」(セブンスデー・ア

ドパンチスト教団・代表高木謙

三氏)、長年に亘って地道な活

動を続けてきた「誕生日ありが

とう運動」(神戸ライフケア

協)、市民福祉奨励賞を受賞し

た「老人給食会」。15年間に亘

って活動を続けてきた「兵庫ボ

ランティア協会」。後天性難聴

者のための要約筆記や、邦画の

字幕を作った「OHPこうべ」。

「老人看護グループオーロラ」





# ■第11回井植文化賞 社会福祉部門

後天性難聴者のための  
要約筆記を続ける

**OHP** こうべ  
(オーバー・ヘッド・プロ  
ジェクターこうべ)

★選考委員

服部 正 津田 元

野上 文夫

△松陰女子学院大学  
△神戸新聞説委員

△兵庫県社会福祉協議会  
△社会福祉情報センター所長

「瀬戸内少年野球団」に涙を流し、「南極物語」に感動し、「寅さんシリーズ」に笑いこける。

中途失聴、難聴者が健常者と変わらぬ邦画観賞ができるようになったのは、要点筆記ボランティア・グループ「OHPこうべ」会員二十八人の活動による。

全国でも珍しい字幕スーパークイ邦画づくりは、神戸市難聴者協会のメンバーから、音声の聞こえない者は、字幕のある洋画しか楽しめず、なんとか邦画の映写会を開いてくれないか、との要望からだった。

ほかに「天然ガス」のPR映画「聴覚障害児」の記録映画も手がけている。かれこれ二年になるがグループはいま、大阪、京都と同じように映画館で上映できないも

のか、と思案している。

協会のメンバーは市内で百人余りだが、なにしろ一般の難聴者は数千人にも及ぶからである。

グループ代表の梶原十三さん夫妻らが、邦画に手を染めるきっかけになったのは、五十七年に神戸市が開催した要約筆記者養成講座に参加、中途失聴者らのコミュニケーション確立のため、彼らが集まる会合でオーバー・ヘッド・プロジェクトを使い、要約筆記の通訳活動を始めたからだ。

翌年、十五人でグループを結成自宅に事務所を開設した。市難聴者協会の役員会、例会、市身体障害者連合会、全国難聴者協会連合会などの行事に参加する。個人的活動ももちろんある。

梶原さんはサラリーマンで、馬

(尼崎市)は、60才以上の老人が、市内の他の老人の看護をする。27年間活動を続けてきた、老人の野外活動のボランティアの「おおぞらグループ」等が候補に上がったが、大変ユニークでサラリーマンの手で活動が行われている「OHPこうべ」と、老人ホームの新しい形態を生み出した「エリア会」に決定した。

## ●受賞者メモリアル

1. 郎子会
2. 延の幸繁大
3. 樹本永
4. 春富
5. 福小
6. 来畑
7. 福小
8. 来畑
9. 福小
10. 来畑

車馬のように元気で働けたおかげで家に余裕ができた恩返しにと、動機を語る。協力者も次第に増え会員の大半は主婦、OL、学生、定年退職者もいる。

教えられることが多いと、その労はいとわれないが、悩みの種はOHP用ロールフィルムなど実習練習のための消もう品がグループの負担になることだという。公的負担はいっさいない。

それでも休日返上で飛び回る。全国各地に同じ志の仲間が増えた。十月には神戸で全国要約筆記者大会がある。

△津田元

## ■第11回井植文化賞 地域活動部門

全国の文化センターの  
草分けとして30周年

## 神戸新聞

## 文化センター

★選考委員

一谷 定之照 今井 仙三

〈園田学園理事長〉

〈丸山地区住民自治  
協議会名誉会長〉

長島 晴雄

〈前神戸新聞監査役〉



町を歩けば文化センターにぶつかる。そんな時代になっている。公営、民営数ある中で、神戸新聞文化センター（KCC）は、全国でももっとも早い。文化センターの草分けである。

発足したのが、昭和三十二年十月一日だから、こじでちょうど三十周年になる。「地域社会の発展と福祉の向上につくす」ことを社是とする神戸新聞社が、地元の地域社会へのサービス活動として始めたもの。

全国から多くの地方紙が見学にきて、これをモデルに文化センターを始めた。あとからできたものが、みな株式会社であるのに対し、KCCが社団法人であるのも珍らしい。

神戸本部のほかに、姫路、明舞、

鈴蘭台などに支部あり。全部合わせると、四百を超える講座がある。

教室での講座だけでなく、異動講座やサロン、ゴルフ、テニス、水泳、乗馬など、野外の教室、歴史、文学、味覚などの特別講座あり。

年間事業は千五百に及ぶ。会員は、二歳から八十歳まで。延べ八万三千人。

最近、外人の会員が目立ってきたのも神戸らしい。

また、海外に文化使節団を派遣している文化センターは、KCCだけだろう。五十八年に米国、六十年にはオーストラリアに派遣し、文化交流、友好親善の役割を果たしている。三十周年を機会にいつその発展を期待したい。

〈長島晴雄〉

## ●選考経過

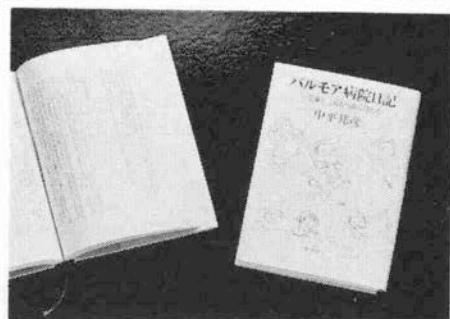
地域活動と言っても、その内容は様々である。警察が地域社会のために貢献することを、職務という観点からではなく評価すれば、兵庫県警山口組特別集中取締本部の市民への貢献度は、十分に評価に価するだろう。

公害病に積極的に取り組み、又、地域医療のネットワーク化を図った尼崎市医師会も候補に挙げられた。個人では、神戸市内の婦人会などで民謡の指導に当たっている黒石紫月氏の名が挙げられた。

そういった中で特に目を引いたのが社団法人神戸新聞文化センター（KCC）。全国の文化センターの草分けとしてスタートし、今年満30周年を迎えた。一般的な教養・実用講座のみならず、4年前からは海外への文化使節団派遣の実施、全国の文化センターの先駆者として、今なお新しい試みに取り組んでいる姿勢が評価され、満場一致で受賞が決定した。

## ●受賞者メモリアル

1. 城崎郡日高町
2. 明石市民のコミュニティ活動
3. 一宮町文化協会
4. 尼崎郷土史研究会
5. 尻池南部地区自治連合協議会
6. 月刊神戸っ子
7. 明延ふるさとづくりの会
8. KICS
9. 丸山地区住民自治協議会
10. アンドレ・ブリュネ



## ■第11回井植文化賞 報道出版部門

小児医療の『闇の谷』  
に鋭いメス。

『バルモア

病院日記』

中平 邦彦 (新潮社刊)

★選考委員

山崎 進

稲継 文彦

△ラジオ関西西代表

△前NHK神戸放送局長

崎山 昌広  
△神戸新聞論説委員長

赤ちゃんにとって産前産後が大事なことは当たり前のことだが、医学の世界では産科と小児科といったタテ割領域に妨げられて、一番大事なはずの周産期の医療が長年見捨てられてきたという怖るべき事実を、この本で初めて知った。

「闇(やみ)の谷」とも呼ばれた周産期医療の大切さに着目、三十余年間、母と子に温かい目を注ぎ続けてきたのが、神戸・バルモア病院の三宅廉院長である。

副題に「三宅廉と二万人の赤ん坊たち」とあるように、この本は周産期医療に一生をかけた老医師と、バルモア・システムに守られて健やかに育った多くの子供たちと母と親たちの、愛の記録だ。この本を読んだ人や、これに基づいてNHKが昨年十一月に制作・放

映したドキュメントを見た人は、きっと人間の誕生の難しさ、母子のきずなの大事さを改めて思い知ったに違いない。

著者はふとしたことからバルモアのことを知り、三年がかりで取材を重ねたという。新聞記者である著者は、日々誕生する小さな命の大きなドラマを描くことを通して、医療のあり方や女性の生き方にまで問いかけの目を向ける。

「あとがき」の中で、著者は特に働く女性の出産、育児について言及し、妊娠や出産にかかわる異常が予想以上に高い事実を報告。母と子が本当に密着しなければならぬ妊娠、出産、新生児期、乳児期の大切さを、もっと認識する必要がある。仕事ならば、錯誤を重ねて何度でも軌道修正すること

が出来る。が、子育ての錯誤はとり返しがつかない事態を招くことがある。そのことを女性だけでなく、男性も同じ責任で考えねばならないと警告している。

著者は、自ら「子育て無経験の者が、このようなテーマにとり組むことにいささかのためらいはあった……」と謙そんしているが、その取材の綿密さや視点の確かさはもちろん、何より生きとし生ける者への暖かいまなざしが活字の裏にキラキラと輝いて見える。本はすでに十数版を重ねたという。

△山崎 進

## ●選考経過

軽薄短小時代を背景に瞬間的に話題をさらうだけの作品が多い中で、「地道な活動の結実を」という方向で選考が行われた。まず出版で候補にのぼったのは本橋文平氏の『但馬の夜明け』(健友館刊)。過去にも郷土史の受賞は多かったが、同作も但馬の近代史の中で革命に生きた青年たちを描いた力作である。

もう一つは中平邦彦氏の『バルモア病院日記』(新潮社刊)。医師三宅廉と彼の創ったバルモアシステムを通して現代小児医療の暗部にメスを入れた同作は、NHKでもドラマ化され、活字と放送によるメディアミックス



# 第11回井植文化賞 報道出版部門

すぐれた構成と司会で  
聴取者の要請に応えた  
スタジオTODYA  
ホットに語ろう！

ラジオ関西制作スタッフ

★選考委員

山崎 進 稲継 文彦

〈ラジオ関西西神代表〉  
〈取締役〉

崎山 昌広

△神戸新聞論説委員長▽



最近のテレビ・ラジオは、情報

番組が全盛である。テンポアップ  
した時代の要請もあってか話題転  
換の早い番組づくりが目だつ。と  
くに朝のワイド番組にその傾向が

強い。こういう中で、ラジオ関西  
の「スタジオTODYAホット」に

語ろう！は、毎朝(月)金10:  
15(11:30)二人のホストが一人

のゲストと一時間十五分にわたっ  
てじっくりと語り合うユニークな

トーク番組である。

昭和五十四年以来生放送で送り  
つづけて八年、ゲストは延べ二千

人を越えたという。この間、「ジ  
ョン・ウエインはなぜ死んだか」

の著者・広瀬隆氏を招いた五十九  
年十一月九日放送の「核の時代に

人間は」が放送批評懇談会のギヤ  
ラクシー賞選奨を受けた。難解な

核問題をすぐれた構成と適切なキ

ヤスティングによって平易で身近  
かなトーク番組としたことが評価

された。

これは、この番組の基本的な特  
徴で、さまざまなテーマに沿って

ふさわしいゲストをよび、ホスト  
役の西条遊児・笑児の二人が、ソ

フトな親しみ易い語り口でじっく  
りと話をひき出す。時間がたつぷ

りあるのでゲストもかみくだいて  
十分に話を展開できる。構成がし

っかりしているうえ、遊児・笑児  
の司会ぶりがさわやかで、時間の

長さを感じさせない。

情報量の多いワイド番組もラジ  
オの特性を生かしたものだ、こ

の番組の時間帯の主な視聴者であ  
る主婦の間には、最近、放送に知

的効果も話題性がある。

一方放送においては、ラジオ  
関西のトーク番組「スタジオT  
ODYAホットに語ろう！」が  
挙げられた。毎回多彩なゲストを  
招いて今年で8年目に入る同番  
組は、昨今のトーク番組ブーム  
の火付け役としても評価が高  
い。

以上のうち選考の結果後2者  
が残ったが、どちらも甲乙つけ  
難く、出版と放送で性格も異な  
ることからダブル受賞となった

## ●受賞者メモリアル

1. 「あなたの愛の手を」
2. 神戸空襲を記録する会
3. 落合 重信
4. 春木 一夫
5. 「兵庫探検」「兵庫史を歩く」
6. 日本経済新聞社神戸支社\* 神戸の  
中堅150社\*
7. 神戸新聞淡路総局「淡路祭事記」
8. ラジオ関西西日中友好番組  
「神戸からこんにちわ」  
「天津からこんにちわ」
9. 神楽越郷「峰相記」
10. 「私たちの昭和史」

ている。断片的流動的な情報の数  
々とは別に、今日的な問題や話題  
のよりくわしい知識、人間として  
の知的欲求に応える知識——そう  
した見応え、聞き応えのある番組  
が求められている。「スタジオT  
ODYA」はまさにこの要請に応  
えている数少ない番組のひとつで  
あり、八年におよぶつみあげは井  
植文化賞にふさわしい功績として  
推選申しあげる次第である。

△稲継文彦▽

## ■第11回井植文化賞

### 国際交流部門

ドイツ語の普及、日独文化の交流に尽くした

# 加藤 一郎

★選考委員

新野幸次郎

△神戸大学学長△

長島 隆

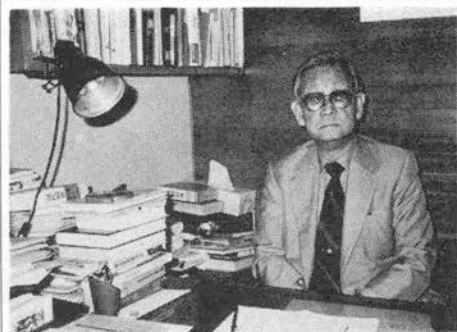
△神戸地下街副社長△

小笠原 暁

△芦屋大学教授△

宇都宮 浩

△兵庫県国際交流課長△



加藤一郎先生は、神戸日独協会が昭和二十九年に創設されて以来、当時の市長原口忠次郎会長の下に副会長に就任、爾来副会長二十年、そのあと昨年まで十年間会長、昨年九月以降は名誉会長として一筋に日独交流に尽してこられた。それもあって神戸日独協会は現在、会員約四百名にもなり、活発な活動を続けている。

もつとも、これだけなら昭和五十年五月ドイツ連邦共和国から「第一級功労十字章」を受賞されることもあるいはなかったかもしれない。加藤先生はこの間三十年間に亘って協会でドイツ語講座を開講され、実に多数の市民にドイツ語とドイツ文化を教えてこられた。さらに先生は協会創立以来、ドイツ図書室の充実に努められ五

千冊に及ぶ図書室長として日独文化の交流に努められた。

ドイツ語とドイツ文化の普及といえ、先生は昭和四年京都帝大文学部卒業後直ちに神戸経済大学講師にご就任以来、今日まで五十八年間に亘って神戸大学、甲南大学、神戸女学院大学などを中心に多数の学生を教育してこられた。

人間を愛し、人間を育てることに情熱を捧げてこられた加藤一郎先生は、その周りに先生を慕う厚い人脈を形成され、その総べての人達をいつの間にか日独交流の輪の中に抱きこんでおられる。井植文化賞にこのたび新しく国際交流部門が設けられ、その最初の受賞者に先生を推薦できることは国際都市神戸の誇りでもある。

△新野幸次郎△

## ●選考経過

これまでの五部門のほかに、今回から新たに「国際交流部門」が設けられ、たくさん候補が挙げられた。

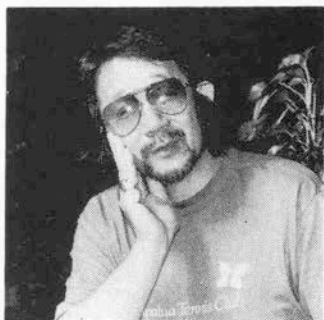
地域に住む諸外国人と日本人との交流を図り、留学生の引き受けなど国際的友情を深めた神戸YMCAクロス・カルチュラル・センター、文化や産業における日独両国間の関係を助長し、ドイツ語の指導、翻訳にも長年努めた日独協会の加藤一郎氏、日本人と中国人との交流に尽くした華僑総会名誉会長李萬之氏と会長の林同春氏。同じく兵庫県と韓国が姉妹提携した際の韓国総領事、金容執氏と韓国居留民団婦人会長、権炳祐さん。彼女は昨年自叙伝「風とコスモス」を発刊した。

続いて神戸大学医学研究交流センターが。外国人の医学論文博士の制度を確立し、外国人の間では「ロンバク」という言葉も生まれた。最後に、一昨年県公館でシンポジウムを開き評判を呼んだ汎太平洋フォーラム。今秋また、汎太平洋地域、途上国との技術と学術交流についての活発な国際シンポジウムを開く。結局は全員一致で日独協会の加藤一郎氏に。30年間副会長、会長としてドイツ語、ドイツ文化、翻訳に尽力した点が評価された。



インタビュー

●珈琲飲みながら……



# 神戸の海に 活字が浮かぶ 大林 宣彦さん

映画監督

1938年尾道市生まれ。幼少の頃より映像の魔力に取り付かれ、成城大学在学中より自主製作作品を撮り始める。77年「ハウス」で一般映画を初監督。それ以後、山口百恵、原田知世等の主演作や尾道3部作等の傑作を次々に世に送りだしている。

いま、神戸の街を舞台にした、一本の映画が公開されている。SFXを駆使した、その映画「漂流教室」を監督したのが大林宣彦監督。尾道を舞台にした「時をかける少女」「転校生」「さびしんぼう」の、俗に言う「尾道3部作」を筆頭に、今、若者にもっとも支持されている監督である。

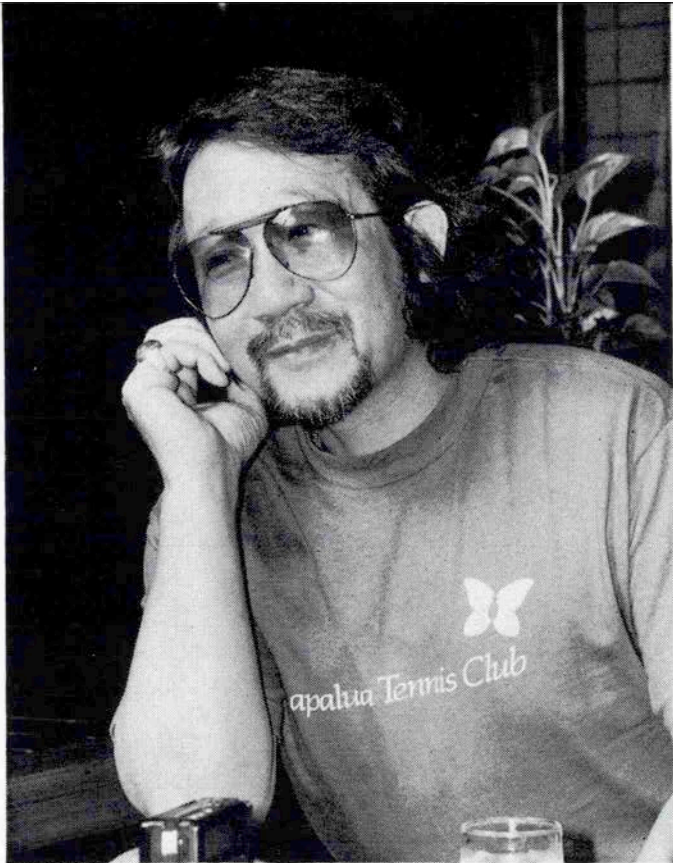
——模図かずお氏の描かれた原作では、舞台は東京だと思うんですが、それを何故、敢えて神戸にされたのでしょうか。

「原作は、もう15年も前に描かれたものですが、それを15年後に映画化するわけですから、単に原作を映画化するだけではなく、どう原作と再び出会うかということがあるわけですね。原作は漫画で『絵』なわけですから、絵をなぞると、一番、似てあらざるものになってしまうわけです。模図さんが何故、ああいう恐い絵で恐い漫画を描かれるかというと、自分がお持ちになっているテーマを、どう面白く簡単に伝えるかという漫画的手段として、ああいう絵が存在するわけですよね。しからば、そのテーマは何であるかというと、『子供達は地球の未来に蒔かれた種である』と。一言で言えば、そうなると思うんですね。つまりタイムスリップ物であるけれども、決して現在に帰って来ない話で。帰ってこないということは、つまり、我々にとっては未来だけれども、子供達にとっては、そこそこが今日なんだ。そういう意味で、

未来に住みついた子供達の、今日を自分達で創る物語であると。そうなりますと、そのテーマを映画で描くとなれば、当然、映画の持っている魅力で描かなくてはいいない。そして、地球的規模の話であるとする、もう日本人の子供達だけではない。つまりあらゆる民族の子供達だろう。そういうことから、インターナショナルスクールという設定がなされたわけです。しかも、インターナショナルスクールだけれども、間違ふことなく日本人の僕達が構想し、日本人の僕達が作る映画だから、舞台は日本がいい。で、日本にあつてインターナショナルスクールが似合う場所は何処かと。まあ、東京・横浜というのは勿論、考えられるわけですが、そういうものの似合う風景として、神戸がよからう、ということになったわけです。それで、神戸にあるカナディアン・スクールを実際に見せて頂いて、絵になる、物語がよく似合う構成を持っている街であると。それから、たまたま、監督としての僕の想いとして、ちよっと、この神戸で映画を撮ってみたいという想いがありましたので、ここで一気に、じゃ撮ってやろうと。」

——尾道出身で、尾道3部作等を撮られているわけですが、神戸と尾道と通じる部分があるように思えるんですが。

「そうですね。やっぱり、僕は街のどこからでも海が観



「神戸は『ものぐるおしい』街ですね」と語る大林宣彦監督

える街というのが大好きですね。と言いますのは海というものは、海の向こうに憧れますよね。異国の物語に憧れると言おうか、遙かな所にある自分の想いにあるとこがれるというふうか。やっぱり、海を見て育っていますから、何が海が見えるとホッとしますよ。」

——監督は、神戸の街をどのように感じていらっしゃいますか。

「尾道にいて、異国の港町に憧れていたんですね。つまり、その頃はマルセイユであるとか、絵本の中にある港町。子供の頃見た、絵本の中の港町みたいですねえ、神戸は。だから、日本のというよりも、何か物語の中にある見知らぬ街の、だけど、いつか絵本の中で出会ったことがある港町という感じで。僕にとっては、まさに、物語そのものという感じがしますね。だから、本当

に随分前から、コマシーヤルを撮りに来たりもしましたしね。今度の映画でも、未来に行ってしまう話ですから、現代の部分というのは、ほとんど映画の冒頭にしかないんですけども、やっぱりそこに、一つの神戸の街の想いを撮りたいなと思ったもんですから。それで神戸の街に設定したんです。それと久坂葉子が好きで、一度映画にしたいなと思っているんです。僕にとっての尾道が、僕という『さびしんぼう』少年が住む街であったわけですね。そして、その『さびしんぼう』少年が憧れる、見知らぬ異国の、ベレー帽の似合う少女が住む街というとなんか感じがしました。イメージとして尾道が半ズボン。神戸がスカートという感じ。」

——監督の作品からは、何となく神戸の臭いを感じられるように思っていますね。

「僕の撮った尾道は、リアリズムの尾道じゃないですから。自分の中の物語を映画にしていますから。そういう意味で、まさに尾道と神戸ってのは、僕にとっては絵本のこちら側とむこう側といった感じで。ですから、神戸の風景を見ますと、海の上に活字が浮かんでくるんですよ。物語が。余白に活字が。いつか神戸で本格的に久坂葉子伝というのを撮ってみたいと願っているんですけれどね。摩耶のケーブルカーに乗った時あの傾斜に『ものぐるおしい』を感じました。見た目は絵画的ですけれど、非常に文学的な街ですね神戸は。」

■大林監督演出「ミステリーナイト」8／21・22プラザホテル。夏の夜、ホテルプラザは推理ドラマの舞台になる。



★Ohノタカラヅカ対談★  
 〈宝塚歌劇団・演出家〉  
**植田 紳爾 & 朝香 じゅん**  
 〈宝塚歌劇団星組〉  
**日向 薫**  
**24時間感性豊かな舞台人に**

虚像の男役をいかに演じるか

植田 ルコ(朝香)の方が一学年上になるんだね。

朝香 はい。予科、本科だったんですけど、ネッシー(日向)の方がしっかりしているから。

日向 うそだ(笑)。同じ東京都港区出身で。

朝香 東京タワーをはさんで、私が芝公園で、ネッシーが六本木。ほとんど身内の感覚で、舞台を観

に行っても、兄弟が出ているという気持ちで観てしまう。

植田 ルコの場合、自分の本質みたいなものが、案外わかっていてたではないかと思う。それがわかりながら、なかなか実力がつかなかったから、客席にアビールしなかった部分はある。やっぱり10年たつて土壌を固めて花を咲かせてきた。なんて言えればいいのか。ネッシーの場合、今までにある男役のタイプにはあまり入らない。

日向

(笑)そうらしいですね。

植田 甘

くて少年

ばいと

か、女性

を引きずっていく

今の力のすべてを作品に注いできたね

ような男役とかすごく男っぽくて、くずれた男を演れる男役。春日野八千代、葦原邦子、小夜福子の系統にはまらない。というのは、まだ舞台で自分の持っている魅力が、自分の中でわからない。まだ模索している部分があるからじゃないかと思う。そういう意味のもどかしさ、何故もつと、良い部分を前面に押し出していないのか、というものがある。タイプは麻実れいなんだけど、持っているものが全然違う。

日向 自分が感じているのと、人様を感じられるものが、私としては理解できないくらい違うんですね。人がみんな口を揃えて言うんだから、ああ、そうなのかなとも思うけど違うんですね。外見と中味が合っていないみたい(笑)。でも自分と違ってみられるというのは、そっちの可能性もあるんだから、両方できていいじゃないかとも思います。

植田 舞台は虚像の世界だから、演じている姿を見て、人々がこの人のイメージを湧かせるんだから私生活とガラツとかわかっていい。ネッシーの場合、まだ持っている本質の部分と舞台が一緒。自分の性格にないものを演じる楽しさがまだわかってない気がする。

日向 すごくあたってると思う。

植田 本質的には舞台人には向か





メルヘンもやってみたい(日向)

役を作っ  
ていく意  
識という  
のは強く  
なりまし  
た。勉強  
したいな  
かったわ  
けではな



いろいろな色の役に挑戦していきたい(朝香)

身長があ  
ったので、  
しょう  
がなかった  
けど、ちよ  
っとでも低  
かったら、  
二人とも娘  
役を…  
日向 やつ  
てる。トップ  
娘役じゃ  
ないかと思  
う(笑)。負  
けないわよ  
ね、そんじ  
よそこらに  
いる娘役に  
は(笑)。

ない(笑)。お嬢さんだもの。男を演じてやろうというふてぶてしさ。したたかさがいい。  
日向 一番いけないところですね。  
植田 クサクしてやろうとかいうことが、自分の中では思ってるんだらうけど、本質的に常識人だし女らしいから、まだ距離がある。

朝香 身長があつたので、しょうがなかったけど、ちよつとでも低かったら、二人とも娘役を…  
日向 やつてる。トップ娘役じゃないかと思う(笑)。負けないわよね、そんじよそこらにいる娘役には(笑)。

かつたんですが、役を頂かないとわからない部分があつたので…  
植田 おもしろさが出てきたきつかけの役は？  
日向 「華麗なるファンタジア」のマックス。一番、私自身に近かつたこともあつて伸び伸びやれましたから。

朝香 私は「愛あれば命は永遠に」の時の、ナポレオンの友人のデスマズ。通した役で頂いた、初めての大きな役だったので、あの時にちよつとだけ自分の中で動いた、という感じ。

植田 確かに、わかつたなど思つたね。舞台人というのは努力しているんだけど、成果の一番いい時にそういうものを与えられるかどうか、という運みたいなものがある。当たれば、グワッと進歩するし、エネルギーがたまつていても、与えられなければしぼんでしまう。早ずぎるとかえつてわからなくもなるし。舞台というのはむつかしいし、怖いし、奥の深いものです。二人が今、ポイントを置いてくるものは。

朝香 その時によつて違うんですけど、自分の足りない所をと思つていますので、ダンス。日本舞踊から、全般的にやろうかなと思つてます。うまいと思えるところはないので、全部に真剣ですけど。  
日向 今は全部に燃えている。素



晴しい劇場のあるところにいるんだから惜しみなく、フル回転させていたきたい。

植田 僕は日本物が好きで、もともと洋物を書くつもりもなかった。尾上松緑さんと僕は日本物の仕事をずっとやっていたのが、長谷川一夫さんが宝塚で演出をされる時に違う路線をいうことで無理やりやった洋物が、今日まで続



今からが勝負！ 頑張ります

長を演らしていただいて、やったあ」と思ったのはあれが最初ですね。ああいう役が好きなんです。

「祝いまんだら」のドラ猫ニャンコとか「我が愛は山の彼方」の地方公演のチャムガも印象的でしたし「レビュー交響楽」、そして今回の「別離の肖像」、多いんです。朝香 お稽古の時先生は何もおっしゃらないから…。

塚の卒業生が映画なり舞台をやるに必ず宝塚調と言われた。それも悪い意味で。宝塚が何だ、というのを見る方の主観だから構わないですけれど、宝塚だから許してやろう、という見方をされると一番腹が立つ。他の舞台、ジャンルと常にレベルを同じにしておかないといけない。宝塚は別物だという演劇界のムードを取り払っていきたいと思ったから、自分たちで考える形にしていた。顔をみればまだ探っているな、とか、家に帰ってもう一度やりそうだ、というのわかりますから。そりや、すぐに遊びに行きたそうだな、というのほ採んでやろうと思いますけどね(笑)。僕が考えつかなかったことをやることもある。それは、生活が違ってから。本人の心の中から湧いてきているから、その方が本物だし、見る方の心を打つと思う。

いている(笑)。

朝香 「愛あれば命は永遠に」「夜明けの序曲」「海鳴りにもののふの詩が」「白夜わが愛」「風と共に去りぬ」だんだん年代が下がって(笑)。「ベルサイユのバラ」の東京公演、と先生の作品にはたくさん出ているんです。

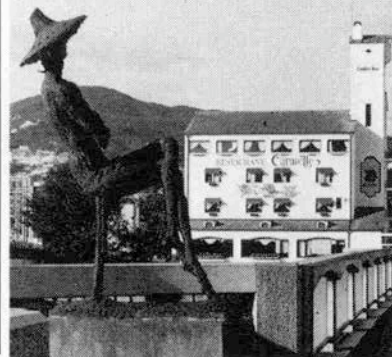
日向 「ベルバラⅢ」が初舞台で「海鳴り…」の新人公演で支倉常

日向 それが怖い(笑)。言われなければ言わないほどグサグサと来る。何か言ってもらえるまで、何か考えなきゃとか、自分であっちこっち探って、先生から「そこ違う」の一言でも発してもらえないように自分でやらなきゃいけない朝香 暖かいけど厳しい。

植田 自分で考える訓練が大事だと思う。「ベルバラ」までは、宝

二人ともこれからますます頑張ってもらわなければいけないけど、役を与えられてから悩むのではなく、舞台人にしても作者にしても、24時間勉強ですから、そういう心構えで見ればすべてが変わってくる。舞台は一人では出来ないんだから、そういう人間のなものを磨いて、もう一度心構えを自分で決めてやっていって欲しい。

# MESSAGE from TAKARAZUKA



## STAGE

●ショーアップした  
ドラマチックレビュー  
8月は、花組の高沙  
巴、秋篠美帆のトップ  
コンビのサヨナラ公演  
となる。

活気と自信に満ちあふれ  
ていた良き時代のアメリカ  
のビジネス界が舞台。  
ニューオリンズの大会社



秋篠 美帆  
ナ(秋  
新秘書  
ハ



高沙 巴  
重役ロ  
の少壮  
ベール

篠美帆)がバリ時代の恋人  
にそっくりなのに気づき近  
づくが、ハンナには意中の  
人バーナード・ジョーンズ  
(大浦みずき)がいた。ハ  
ンナの頼みを聞いてロベ



朝香 じゅん  
さ。60年  
の歩み  
を



大浦 みずき  
1本は  
もう  
そし  
モンパ

ルは、合併されかけている  
バーナードが勤めるホテル  
に力を貸すが、バリ時代の  
ロベールの秘密を探る人間  
が現れる。その話を聞き不  
安を感じるバーナード。そ  
して、デキシード調のジャズ  
に乗って物語は進んでいく  
ドラマをお楽しみ下さい。

★ミュージカルロマン「あの日暮  
一輪」15場 柴田侑宏作・演出 モン  
パ 60年記念 ザ・レビュー  
20場 横澤英雄作・演出 8/7  
19/23宝塚大劇場  
A 22000円 B 14000円 C 8  
000円(水曜休演)

## BOW HALL

●WHAT'S  
THE TITLE/  
第2回目の峰さを理  
リサイトル。  
地球に不時着した宇



峰 さを理

宙人がシフレイディという男  
の身を借りる。言葉を知り  
その言葉をハーモニーに乗  
せて歌うことを覚え、人々  
の心をひとにしたハーモニ  
ーの力で宇宙に旅立ってい  
く。

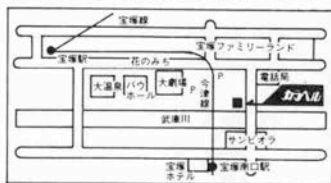
宝塚きつての歌唱力と、  
エンターティナー峰さを  
理の魅力を最大限にお見せ  
します。宝塚での最後の公  
演となるリサイトル、お見  
逃しなく。

★WHAT'S THE TITLE  
正塚晴彦作・演出 8/13・8/22  
宝ホール 35000円

## 宝塚歌劇 座席券セットのホテル

### 宝塚レディスイーン

●ご宿泊(朝食付) お一様¥5,000  
(税・サービス料なし) 全室バス・TV付



阪急宝塚南口駅、徒歩3分・阪急宝塚駅、徒歩5分  
〒665 宝塚市武庫川町47-1 ☎0797(81)0001

## NEWS

●友の会へのお誘い  
素敵な夢を贈り続け  
る宝塚の舞台。そのレ  
ディドリマーの世界  
への架け橋、宝塚友の会に  
あなたも入りませんか。  
A会員/六カ月 三千元で  
毎月「歌劇」を郵送。

B会員/六カ月 三千元で  
毎月「宝塚グラフ」を郵送  
普通会員/一年 二千元で  
毎月「宝塚だより」を郵送  
その他、友の会行事への  
参加、座席予約などの特典  
もあります。

花の道にある友の会サロ  
ンには宝塚の情報がいつぱ  
い。気軽にお寄り下さい。  
お問合わせ・申込みは  
宝塚友の会サロン 〒665 宝  
塚市栄町1-1の57 ☎07  
97(85)6801 郵便振替  
口座 神戸9-113286



特集★  
Kobeの  
カルチャー

(1)

●この秋 KOB E 発!

神戸で

オペラを

〈第7回—神戸秋の芸術祭〉

座談会  
梅田正己 (神戸芸術協会  
会長)  
中村茂隆 (神戸大学教育  
学部教授)

小林慶成 (関西二期会  
常任理事)  
弓倉恒男 (神戸市民文化振興財団  
専務理事)

浜崎加代子 (KOLABE代表)

オペラの本場ウィーン  
歌劇団の「魔笛」。



都市宣言をいたしまして、人間のすべてを含むようなフアッションを考えております。ですから、オペラは非常に神戸にふさわしいのではないかと思っております。

梅田先生の「フィガロの結婚」からスタートいたしますが、いかがでしょうか。

梅田 3カ月余りの間に4つのオペラを上演することは、画期的な試みだけに、大変だなと思っております。これを何とかやりとげて、神戸にオペラの根が生えますように頑張りたい。

小林 2番目に「魔笛」を上演するわけですが、私どもは、7回目を迎えます「ニッセイオペラ教室」のうちの一日間を、一般公演という形で参加いたします。

弓倉 ア・ラ・ディ・コウベさんの場合は自主公演ですね。

浜崎 第4回の自主公演です。結成7年目の若いグループなんです。が、私たちは「おばあちゃんにも

判るオペラ」という目標で広く草の根運動的に、みなさんに観ていただけるように活動しています。

秋の芸術祭で林光先生の新作「スカートをはいたジャンヌ・ダルク」を初演します。平均年齢26歳の若いパワーで、意欲的に取組みたいと思っています。演出を東京の黒色テントの方にお願ひしましたので、少し芝居っぽいものになるのではないかと思います。

中村 このシリーズの最後を受け持つのが私の作品で、'85年に大阪で初演しました一人オペラの「信太妻」です。今回は少し趣向をこらしまして女声合唱とバレエと、主役を二人一役でやることにしております。スタッフ、出演者の90%が兵庫県在住者という構成で公演することになりました。

弓倉 クラシックの場合、やはりお客様を集めることに、みなさん苦労されているわけですが。

中村 クラシックの愛好者という

弓倉 今年で秋の芸術祭も7回目を迎えるわけですが、今回は歌劇がこの期間中に4つも上演される、神戸ではかつてない試みとなるわけです。そこで今日は、抱負ですとか、これからの神戸のオペラの見通しなどを語っていただきたいと思います。よく言われますが、オペラは総合芸術であります。神戸市は昭和48年にフアッション



梅田 正己 さん

のは常に限られてますから、観客動員が非常にむづかしいわけです。私の作品は歌舞伎が題材ですから歌舞伎がオペラになったらどうなるんだ、というような興味で先輩の方が観にこられました。特殊なオペラファンだけを狙っていると市場が重なり合いますから、オペラを観たことはないが、そういう題材だったら見てみよう、という層を、神戸市を中心に広げていきたいと思っています。



浜崎加代子 さん



中村 茂隆 さん

志向が出てきていると思います。ですからここで、神戸にオペラの花を咲かせたい。

中村 最近、コマースヤルの中にオペラの曲が普通に入ってきているわけです。例のキャスリーン・パトルの来日公演のチケットは売り切れたそうですが、そういったブームのお客さんが、今後のオペラの世界につながっていくてくれるか、といえば、そうでもない。そのギャップを埋めていく。オペラと聞いて二の足を踏むお客様に、何とか会場に運んでいただく工夫が必要ですね。



小林 慶成 さん

う拒絶反応を取り除いて、わたしでもわかるな、という部分を持っていただけの会が増えてくるといんじゃないかと思っています。

私たちのグループは、年に2回ぐらいファミリーコンサートをやっています。小さいコンサートの中から、みなさんが大きなホールに行ったらどんな素敵なオペラがあるかな、という気になっていただいて、それで劇場へ足を運んでいただけるようになれば、と思います。それと広く目に触れるということ、早くに知っていれば行きたかったという方もいらっしゃるんです。PRの方法もアイデアを出していかなければいけませんね。



弓倉 恒雄 さん

中村 りっぱなオペラの作品はたくさんありますから、これ以上創っても仕方ないんじゃないかと、僕自身思うんです(笑)。ただ日本語で日本のメロディーに載せて歌うと翻訳ものにはないものがある。この間、詩人の方の詩に曲をつけて歌う会をやったんですが、



まず詩人の方が、音がつくところになに変わるのかと驚かれる。オペラでは言葉が音になる。それがバレエなどの素材が入って視覚的になると、膨んでいくわけです。

そういうことをもつと知って欲しいな、と思いますね。いま、ミュージカルの時代になってきているわけですが、踊り、演出、芝居は素晴らしいが、歌がヘタでしょう(笑)。逆にオペラは、歌の部分で成立しているんですから。そこへ演劇的要素がキチツと出来上がる、ということを考えていかなければいけない。私はオペラにこだわらないで、音楽を加味した、歌芝居というか、ミュージカルも含めて、トータルな表現が盛んになつていかなければいけないですね。神戸には小さなホールがいくつもありますから、500人でも、100人でも、ピアノ一台があつたら成り立つ舞台を考えていかなければならないですね。

浜崎 私たちがこれまでやってきましたピアノ一台と箱二つがあつたら出来るという林光先生のオペラの場合、オペラって、こんな身近なもので出来るかっていうお客様のストレートな反応が一番多いですね。

小林 訳詩の問題があるんですが、モーツァルトのものは、だいぶ練れてきて日本人が歌っても不

自然というのがなくなってきたいんです。イタリアオペラ系統のものはまだまだ異和感がありお客様にはづらいでしょうね。

梅田 言葉がわからないと、筋がわかりませんから、笑いが出てこない。そこが大きな問題点ですね。

中村 歌うためにデフォルメしている部分が、初めて聞いた方には非常におかしうつる。普通に歌える言葉を、われわれがもつと研究しなければいけない。

梅田 神戸の場合、地元でオペラがあまり創られなかったものから衣装とか舞台の面でまだまだ不十分です。ですから、このオペラシリーズを機会に盛り上げて地元の芸術集団の汗、臭いのあるオペラを創つていかなければ、地方オペラとして、東京のもの、海外ものに對抗していけないでしょう。テレビでは味わえない生の良さ。こういうものがあってもいいと思います。

弓倉 かつては、日本人の歌手では歌えない歌曲もあったものが、テクニクの面でのハンディがなくなってきた。そういう意味でもオペラは身近なものになっておりますね。

梅田 オペラのマリアというのは英語の「Maria」、空気なんです。そしてオペラ歌手のエネルギー源

は肉なんです。空気が良くて、ステキーがおいしく、ファッシュョンが素晴らしい神戸は、オペラにうってつけの地であると思います。

小林 洗練されたセンスが、クラシックを聞くセンスにつながりますからね。

梅田 労音時代というのは、国際ステージサービスで舞台を作つて西の方へ持っていった歴史があるんです。つまり、神戸は西のオペラの本拠であった。東の帝劇、西の聚楽館といわれていた時代があつて、大正時代に、イタリアオペラが上演されているんですね。ですからもう一度、神戸にオペラ、バレエ、演劇を含めた劇場が欲しいですね。

小林 シーズン制になるといいですね。そのシーズンになったらオペラが見れる、という形で定着しているといいですね。

中村 大阪が近すぎるために、なかなか育たなかった部分があつたわけですが、スタッフ、キャストともにちよつと頑張れば出来ることですから。

弓倉 今回のオペラの試みが成功して、これをきっかけにオペラ、ひいては音楽の愛好者が増える形になって欲しいと思います。どうぞよろしく願ひいたします。

(プラン・ドウ・プランにて)

# 第7回 神戸秋の芸術祭——神戸でオペラを——

## 「フィガロの結婚」

10月8日(木)18時15分

9日(金)18時15分

神戸文化大ホール

S ¥5000 A ¥4000 B ¥3000

(A・B券は当日座席引換)

総監督 畑中 良輔 振付 貞松 融  
指揮 岩淵龍太郎 制作 梅田 正巳  
演出 西澤 敬一

合唱 フィガロ合唱団  
チェンバロ 小堀由美子  
管弦楽 神戸室内合奏団

## 「魔 笛」

11月3日(祭)14時

神戸文化大ホール

¥3000

指揮 岡田 司  
演出 鈴木 敬介

合唱 関西二期会  
演奏 京都市交響楽

## 「スカートをはいたジャンヌダルク」

11月13日(金)19時

14日(土)18時

神戸文化中ホール

¥3000

台本・演出 加藤 直  
作曲 林 光  
制作 演出 ALA DI KOBE

## 「信太妻」

12月1日(火)19時

2日(水)19時

神戸文化中ホール

¥3000

台本 かたおかしろう  
作曲 中村 茂隆  
演出 茂山千之丞  
指揮 斎田 好男  
演奏 神戸フィルハーモニック

お問合せ 神戸市民文化振興財団 TEL078-332-3320



特集★  
**Kobe**の  
カルチャー

〈2〉



佐本 進さん



夏目 俊二さん



北野ミュージカル「柵の館」  
が上演される北野クラブ

●この秋。北野町発  
インターナショナルに  
北野ミュージカルが開幕する

劇団神戸主宰  
座談 夏目 俊二  
シニア・ボッシュ  
佐本 進

英国館・展望塔の家館長 柳ベアーズ取締役社長  
三浦 明定 菊地 由紘  
北野クラブ常務取締役 音楽家  
浅木 隆子 小曽根 実

ローズガーデンオーナー  
若山 晴洋  
関西タイムアウト  
松永 幸子

聖母被昇天学院女子  
短期大学講師  
ブライアン  
司会・本誌副編集長  
小泉美喜子

小泉 陳舜臣先生原作の「柵の館」をアレンジしたミュージカルが劇団神戸によって、今秋北野クラブで上演されます。今日は夏目さんと北野界限の方々にお集まり頂き、北野ミュージカルへの思いを語って頂きたいと思います。

夏目 「柵の館」はそもそもミス

テリーで、戦後焼け残った異人館に日本人のメイドとして住みこんだ女性の一生を描いたものなんです。私は以前から、せっかく神戸でミュージカルをするなら、神戸を素材にしたもので神戸でなければできないものを、地域ぐるみでやりたいと思うていたものなんです。から「異人館が舞台」というのはまさにピッタリなんです。そして俳優さんの方も実際に外国人の方に出来たらなくて意味がないのではないかと……。今まで私達はよく金髪のかつらをかぶったりもしたのですが、どうも様にならない(笑)。

それで松永さんにご相談したところキッツ(キンキ・インターナショナル・ドラマティック・ソサエティ)のメンバーが阪神間に多くいらつしやと。そうだったら何とか盛り上がり行くんじやないか。今日はさっそくメンバーの一人、ブライアンさんにも来て頂き、うれしく思っております。

松永 私共の編集長がイギリス人でメアリー・キッツソンというんですが、彼女もキッツのメンバーでして。キッツには大勢メンバーもおりますし、おもしろい企画だし、スケジュールさえ合えばうまく行くと思いますね。

ブライアン 私は西宮在住で、短大の講師をしているのですが、今回の試みは大変興味があり単に外国人と日本人がミュージカルをするというだけでなく、ストーリーも外国人に関係があるということが興味深い。国際化という事も随分言われていますし、もしロンググラ



スティープン  
ブラウン さん



松永 幸子 さん



若山 晴洋 さん



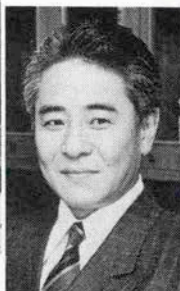
小曾根 実 さん



菊地 由紘 さん



浅木 隆子 さん



三浦 明定 さん

ンになったとしたらとてもうれ  
しい。

小泉 上演を北野クラブでという  
ことなんです。浅木さん、今春か  
ら北野クラブはナイトクラブが、  
イベントホールへ変身したのでふ  
さわしい企画ですね。

浅木 ええ。そういう意味でもこ  
のお話は楽しみなんです。脚本も  
拝見しましたが、私達の知らない  
時代も含めてこの町の思い出みた  
いなものが込められているなあ  
と。若い方も大人の方も、ここで  
北野町の楽しい雰囲気味わって  
頂けたら最高です。

夏目 新しもん好きの神戸で、神  
戸が発祥というものはたくさんあ  
るのに、芝居が定着している部分  
というのは非常に少ない。ファッ  
ション、食べもの……ほとんど全  
部揃っているのに、文化について  
はすごく遅れてる気がする……。

小曾根 確かに。神戸というのは  
元々ロングランが全然ダメな所と  
いう鉄則みたいなものがあって  
ね。どうしてなのかよく達にも分  
らないんだ。冷たいのかな。実は  
先日夏目先生の方から、北野ミュ  
ージカルの音楽を担当するように  
言われたばかりで、具体的な曲づ  
くりはまだ始めていない。一つ不  
安なのは、やるからには生で演奏  
したいんですが、スケジュー尔的  
にどうかという点ね。録音でする

のとは全然迫力が違うから。

小泉 今回のこの試み、北野町の  
商業者の目から見てもいいがです  
か。

三浦 文化の中でも、お芝居とい  
うのは商業に与えるインパクトが  
すごく大きいんですね。外国のど  
この土地へ行っても、大きな劇場  
のそばには素適なレストランがあ  
る。お芝居と共に、食文化が非常  
に成熟している。北野町で佐本先  
生がシアター・ボックスを作られ  
た時は一つの衝撃だった。そして  
今度夏目先生の企画をお聞きして  
思い出したのはニューヨーク。あ  
の大都市が破産して破滅状態にな  
った時、再生するのに何を売った  
かと言うと実はお芝居だった。世  
界の大都市と言われたニューヨーク  
を救ったのはミュージカルだっ  
たんです。そういう意味で、北野  
町をいい形で救って頂く、もうひ  
と回り大きくして頂くにはお芝居  
が一つの演出の手だてだと思っ  
ています。

若山 文化的なものを大切にする  
というか、育て上げようとする匂  
いだけでも、我々商業者としても  
大切にしたいと感じてます。  
特にファッションストリートを主  
催している立場からしてもファッ  
ションの後ろにアートがないファ  
ッションなんて——という意味  
で、手作りのそういうおもしろい



試みは楽しみですね。キッツのメンバーはイギリスの方が多いらしいけど、そもそもミュージカルの本場はアメリカでなくロンドンなんですよ。まあ大きな催しは東京や大阪にまかせておいて、神戸では地元の人達で作りに上げていく、せっかく外国人も多い土地柄なんですから、そういう点で神戸は頑張るべきですね。

菊地 随分昔になりますが、この「柊の館」が発刊された時、すぐに読んだ記憶があります。北野町でこういう新しい企画を行うのはすごくうれしいことですね。うちも異人館倶楽部パートIIのバラディアームで毎週金曜の夜、名画劇場をやっているんです。まだ招待客だけで一般の方では無理な状態なんです、なかなか評判が良くてね。時間も遅くからですから仕事の帰りとか、主婦の方とか来て頂けますし。この目的は、北野町は文化的なものが少なかったでしょう。異人館があつて、ファッションビルがあるわけだけど、本当の文化はまだ流れていない町なんです。小さいけれど、手作りでやって行けるのが神戸の魅力だと思えますね。逆に言えばキメの細かいことが出来るという。これをきっかけに、北野町も経営者や住人が共鳴してミュージカルだけでなく、文化全般をバックアップ

していかねければいけないと思います。文化ホールや国際会館もあるけど、思ったように神戸は人が入らない。案外神戸の人は文化については、まだまだ遅れてると思います。

モダニズムの開化した発祥地なんだし、もつと西洋文化を取り入れ、消化し、理解し、感じることに大事だと思えますね。

小曾根 しかし、やるとなったら全国的スケールでやった方がいい、神戸だからって、せせこましく手作りにしなくたっていいと思います。神戸で大きなことをしてももちろんいいと思うし。それよりもぼくが一番感じているのは、日本の劇団は何で外国ものばかりを上演するのかってこと。結局アメリカから渡って来たものを日本でアレンジして上演するわけで、二番煎じなんです。日本のオリジナルものを外国へ持って行けるぐらいもつと頑張つてほしい。そういう意見でも、今度の北野ミュージカル、ぼくも協力させてもらいますよ。

佐本 今度できる新神戸のニューオリエンタルホテルの中にもシアターがあるらしいし、神戸外国人倶楽部にかけて「シアタープロムナード」みたいなものが出来たら最高ですね。劇場というのは、一つポツンとあってもダメ。ゾーン

の中に幾つかあつて、自由にセレクト出来る環境でない。

小泉 そういう意味で、神戸というのはサイズ的にちよūd良いですね。それに北野シアタープロムナードなんてステキですね。

佐本 結局北野町のシンボルは異人館なんです。陳先生の作品は、異人館に対する鎮魂歌だと思うんです。ぼくは常々、北野町は門前町の様な気がしていた。ご本体は異人館、参拝者は観光客(笑)。と考えた場合、欠けているのが奉納楽。神様を讃えるものがないんです。それがミュージカル、文化だと思ふ。

夏目 実際、昭和39年に陳先生がこの小説を書かれた中に「異人館への墓記銘」だとあります。当時異人館は観光名所でも何でもなく亡びてゆくものとして、そういう認識の上でお書きになられたものなんです。

何はともあれ、この北野ミュージカル第一号「柊の館」はオール地元で、原作から音楽から、出演者は外国人を交えてと全部神戸にゆかりのある方々だけだと思つております。インタナショナルな完全神戸オリジナルというものを創り上げたいと思いますのでぜひご協力下さい。

△北野クラブにて▽  
■11月下旬公演予定

## 経済ボケツ ジャーナル

### ★神戸の基幹産業に 新世代社長誕生

神戸を代表する企業、神戸製鋼所と太陽神戸銀行にそれぞれ、神戸出身の新社長・新頭取が誕生した。

6月26日の株主総会で選



亀高素吉氏  
出された  
新社長



松下康雄氏、  
松下新頭取

神戸一中の同級生であり、それぞれ大正15年生まれの同年齢でもある。亀高氏は神戸経済大学(現神戸大学)卒業後、神戸製鋼に入社、様々な要職を経て副社長より就任。松下氏は東京大学を卒業後、大蔵省入省、事務次官等の要職を経て61年同銀収縮役常任顧問に就任



し、新頭取に。円高等不況が続く中、ニューリーダーの手腕に期待したい。

★ファッショントウンに  
新たな仲間が誕生

7月22日(水)、ファッシ



カイトック神戸ビル  
ウインタ  
カイト  
株式株  
の神戸

ビルがオープンした。

中四国を中心に営業活動  
を続けてきたオカセンが、  
4月、岡山市に新社屋を完  
成し、それを機会にカイト  
ックと名を改めたもので、  
西洋屋敷を思わせるシャレ  
タビルの完成で、またファ  
ッションタウンに新たな魅  
力が加わった。

★JR西日本、  
新体制で前進!!

この4月1日に、国鉄が  
JRに生まれ変わったが、  
神戸のJR各駅も大幅な変

改が行われ、神戸駅には神  
戸営業本部が、三ノ宮駅に  
は旅行センターが置かれ、



清水各氏  
久松・三  
大久保  
間で行  
動を行  
う。三  
宮駅  
左より、  
長は辻

和己さんが、営業支店長に  
は清水階さんが、旅行セン  
ター所長には久松密了さん  
がそれぞれ就任。色々な可  
能性を秘めた企業だけに、  
JRの今後の活動に要注  
目!

★神戸市市議会に新議長

5月より、神戸市市議会



吉本 泰男氏  
長に吉  
本泰男  
氏が就  
任した  
吉本氏  
社会党

は大正7年生まれ、

★KOBEOフィスレディ★

深田 恵子さん (23)



昨年、菊正宗に入社。大学は男女共学  
だったが、中学・高校が女子校で、就職  
してから、同僚は、ほとんど女性ばかり  
とか。「だから、なかなか男性と知り  
合う機会がなくて」とボヤク。特徴的な  
眼がクリクリと動くように、何事にも好  
奇心旺盛。その証拠に、現在でも仕事  
が終わってから、書道にお花に料理を習い  
に行っているが、「まだまだ、色んなこと  
がやりたいんです」と語る。明るく素  
敵なおひつじ座のA型。兵庫区在住。

〈菊正宗酒造株式会社 物流部物流管理科勤務〉



第1回展示商談会  
第1回展示商談会  
第1回展示商談会

製品等、様々な商品を15社  
が展示促売した。そして、  
神戸貿易の一層の活性化の  
ためにも、やはり常設展示  
場が必要であると訴えた。  
第2回目は9月25日(土)  
日、サンポートホールで開催。

に所属。昭和26年初当選以  
来10期連続のベテランで過  
去、昭和51年にも議長を勤  
めている。

★輸入品常設展示場の  
完成を目指して

7月4日より8日まで、  
サンポートホールにて輸入商  
品展示商談会の第1回目が  
行われた。これは、神戸に  
輸入品常設展示場の建設を  
願う神戸貿易協会が主催し